

専齋 **SENSAI**



満開のさくらです。心がなごむ季節になりますように。

診療科紹介 update

Vol.5 循環器内科

TOPICS

- ・令和元年度 QC活動報告
- ・活水女子大学より、マスクを寄付いただきました。
- ・令和元年度 院内臨床研究発表会
- ・第7回院内クリティカルパス大会が開催されました。

雲仙普賢岳大火砕流で被災した患者の主治医となった研修医

Vol.3

看護部だより Vol.20

地域医療連携室からのお知らせ

長與 専齋 (1838年～1902年)

大村藩御殿医の家系に生まれる。緒方洪庵の適塾に学び、福澤諭吉の後を襲い塾頭となる。初代衛生局長として我が国の近代医療制度の確立に尽力した。衛生という言葉をはじめ採用したのも専齋である。専齋の生家は「宜雨宜晴亭」と呼ばれ、長崎医療センター敷地内に移築されている。



## 循環器内科

### 循環器内科の特徴

1. 冠動脈疾患に対するPCI治療成績の向上と長期予後の改善に努力
2. 年一回行う長崎PCIライブデモンストレーションで、技術向上と若手医師の教育、さらに治療のオープン化
3. 心臓リハビリテーション・和温療法から両室同期ペーシング治療まで幅広い心不全治療
4. 心房細動を含む不整脈疾患に対するカテーテルアブレーション治療
5. 循環器学会・内科学会・日本不整脈学会・日本心血管インターベンション治療学会等の学会活動
6. 講演会および症例報告等の地域医療と交流
7. 研修医・レジデント指導

当院循環器内科は2019年7月から不整脈専門医石松卓医師が加わり、スタッフ5名とレジデント2名からなり、そのうちスタッフの5名全員は日本循環器学会循環器専門医でかつ当院は日本循環器学会認定循環器専門医研修施設です。入院患者さんの約6割が急性心筋梗塞や狭心症などの虚血性心疾患患者さんです。循環器内科医師が常時on-call状態で待機しており、24時間緊急心臓カテーテル検査・PCI加療や急性心不全の治療が可能です。

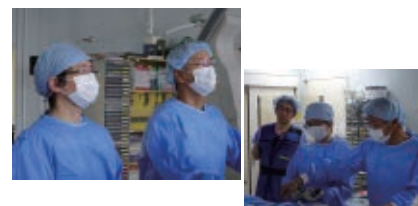
### PCI治療成績の向上、長期予後の改善と長崎PCIライブデモ

当院は県下でも少ない日本心血管インターベンション治療学会(CVIT)研修施設で、県内でもっとも早くから認定されています。そのためPCIの治療成績向上のみならず、日本心血管インターベンション治療学会専門医/指導医於久幸治先生と専門医深江貴芸医師が主に若手医師の教育や指導を行っています。また国内のPCI治療の高名で著名な先生方を当院に招聘させて戴き、約20年前から年に1回長崎PCIライブデモを行っています。ライブデモの目的は下記です。

- ① 医師や看護師の治療技術や論理的思考の向上
- ② かかりつけ医との連携医療の確立(地域密着型医療)
- ③ 患者・家族も含めた包括的医療のオープン化

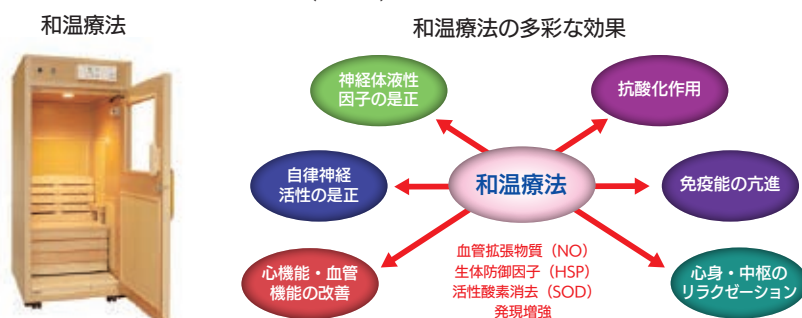
2019年は4月19日に加藤修先生・上田欽造先生をお招きし、高度な治療を行いました。2020年度は9月12日にPCIライブデモンストレーションを行う予定です。

#### 県央PCIライブデモンストレーション



## 心臓リハビリテーション・和温療法から両室同期ペーシング治療まで幅広い心不全治療

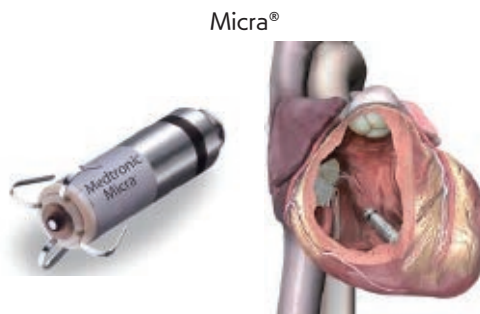
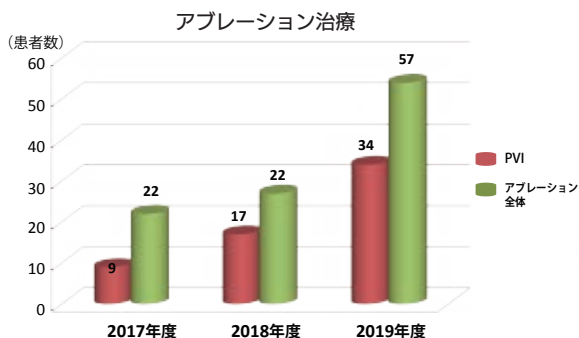
高齢化に伴い日本全体で心不全患者のパンデミックが懸念されており、当院でも明らかに増加しています。特に重症心不全患者さんには、内服強化療法と心臓リハビリテーションを行っています。心臓リハビリテーションは指導士である松尾崇史医師を中心に行っています。それでも心不全がコントロール出来なければ両室同期ペーシング治療（CRT）や和温療法を行っています。積極的に和温療法を行っているのは、当院のみです。また和温療法の対象は難治性心不全患者さんだけでなく、血管障害による難治性の下肢虚血患者（CLI）や難治性リウマチ性多発筋痛症患者にも臨床的に有効です。下肢閉塞性動脈硬化症（ASO）は心臓血管外科や形成外科など他科と連携し、内科的に加療な症例には積極的に血管形成術（EVT）を施行しています。



## 不整脈疾患に対するカテーテルアブレーション治療

不整脈疾患領域では、不整脈専門医石松卓医師が当院に赴任して以来、アブレーションによる治療症例は増加傾向にあり、今後は経皮的カテーテル心筋冷凍焼灼術（クライオアブレーション）も導入も検討しています

また不整脈治療に関しては、ペースメーカー植え込み術はもちろんの事CRTなどの植え込みの増加が期待されます。また、松尾先生を中心に経皮的植込み型リードレスペースメーカー（Micra®）を施行しています。



## 学会活動

学会活動にも非常に力を入れており、国内外の学会で座長をはじめ、コメンテーターなどの役割を担い、また循環器内科医師に加え研修医にも多くの学会で演題発表をおこなっています。そこで学んだ医療技術や知識を地域医療に貢献していきます。

## 研修医指導・専攻医指導

毎月1名か2名の研修医が当科をローテーションしています。2カ月当科を廻る研修医は地方会等での学会発表をするようにしています。また今年度から新内科専門医制度が開始され、長崎大学病院と連携しながら循環器内科としても専攻医の指導に携わっています。

また、週に1回は抄読会を開催し、最新の循環器疾患について検討・討論を行っています。

## 令和元年度 QC活動報告

統括診療部長 吉田 真一郎

医療の現場において求められている、効率的・効果的でクオリティの高いサービス実現のため、部門ごとに業務を見直し改善をおこなっていくのがQC(Quality Control)活動です。部署単位で、自ら課題を設定し、自発的な業務の効率化がすすめられています。

令和元年度も多くの部署にエントリーいただき、その発表会が令和2年2月に3日間にわたし実施され、入賞者への授賞式は3月に開催されました。本年度の最優秀賞は、薬剤部の“させません煽り調整～整理整頓で無菌室業務の効率化、患者待ち時間短縮を目指して～”でした。

QC活動は継続していくことが大切ですので、今後も多数のエントリーをよろしくお願いいたします。



表彰	部署	タイトル	チーム名
最優秀賞	薬剤部	させません煽り調整 ～整理整頓で無菌室業務の効率化、患者待ち時間短縮を目指して～	れいわ整頓組
特別優秀賞	診療情報管理室	見つけ出し作業を見直して的中率を上げよう！	がん登録室
特別優秀賞	5A 病棟	待たせません。いつまでも パート 2	トイレお助け隊
優秀賞	7A 病棟	器材庫の整理整頓！！	7A 病棟片付け隊
優秀賞	栄養管理室	減塩 6g の壁をぶっ壊す！ ～病院食だけじゃ終わらせない～	NaCl から患者を守る党
優秀賞	3A 病棟	Simple is best.	3A QC チーム

## TOPICS

### 活水女子大学より、マスクを寄付いただきました。

この度中国の杭州師範大学より活水女子大学に寄贈されたマスクを、長崎医療センターに寄付いただきました。以前活水女子大学が、姉妹校である中国の杭州師範大学へマスクを寄贈されたお返しにと、約1200枚のマスクを寄贈いただいたものです。

寄付いただいたマスクは、職員の生命と健康を守るために、大切に使用させていただきます。今回の温かいご支援に心より感謝を申し上げます。



## TOPICS

## 令和元年度 院内臨床研究発表会(令和2年3月17日、18日開催)

## 令和元年度院内臨床研究発表会を終えて

総合診療科医師 森 英毅

「臨床研究」と聞いてどんなイメージを持ちますか？

「日常業務で忙しくそんな暇はない」「自分には関係ない」正直そのように思っている方は多いのではないのでしょうか？間違いなく私もその一人でした。

私が臨床研究に興味を持ち始めたのは卒業7年目頃、診療所勤務をしているときです。(写真)現在よりも比較的時間に余裕があったため(笑)、日常診療の疑問や気づきに関して詳しく論文を読むことができた非常に恵まれた時間でした。その中で気づいたことは臨床で行われている多くのことが実は曖昧でわかっていないということです。



「自分で研究できないか？」それまで全く興味がなかったリサーチですが、手探りながら勉強を始めてみたのがこの頃だったと思います。

当院は院内臨床研究発表会やリサーチよろず相談所など、臨床研究を病院全体でサポートしてくれる臨床研究を実践するにはうってつけの病院です。私もペースメーカーとして利用させていただき、毎年発表させていただいています。

臨床をやっていると必ず何らかの臨床的クエスチョンを抱くはず。その場限りにせず調べてみる、リサーチクエスチョンに昇華できないか考えてみるのが大切だと思っています。臨床研究、正直なかなか大変なことも多いのですが、自分で抱いた疑問であれば結構頑張れるものです。臨床研究を行うことで臨床や教育も楽しくなりました。ぜひ一緒に頑張りましょう。



## TOPICS

## 第7回院内クリティカルパス大会が開催されました

産婦人科医師 梅崎 靖

クリティカルパス/クリニカルパス(以下クリパス)とは患者さんの状態にあわせて作られた診療の目標や評価・記録を含んだ標準診療計画のことで、定めた標準からの「逸脱」を分析することで医療の質を改善できます。このクリパスを積極的に活用していくためクリパス委員会と推進部会が活動しており、クリパスの教育・啓蒙を目的としたクリパス大会を年1回実施しています。

令和2年2月12日に第7回院内クリティカルパス大会が開催され、内分泌・代謝内科、クリパス推進部会、4A、4B、5A、8A病棟のクリパス委員と推進部員による6題の演題発表がありました。推進部会からのクリパス

運用実績と詳細な分析報告の後、新たに作成された原発性アルドステロン症の検査パスと腹腔鏡下腎・尿管摘出術パスの具体的な診療・看護内容を提示していただきました。また、現在使用されている脳波モニタリング検査パスと帝王切開パス、ERCPパスの改善の報告があり、クリパス分析の手法をいくつも紹介していただきました。

今年度のクリパス活動は、看護記録を中心に業務の効率化につながるクリパスの改善を行う予定としています。クリパス活動への、理解とみなさんの積極的な参加をよろしく願います。

雲仙普賢岳大火砕流で  
被災した患者の主治医となった研修医

国立病院機構長崎医療センター  
副院長 八橋弘

Vol.3

この1冊の本の文章は、矢内万喜男氏が被災した6月3日から亡くなるまでの6月24日まで日付がふられて、日記のように記載されている。妻である矢内真由美さんは結婚前にマスコミ関係で仕事をされていたことから、詳細にメモを取られていたのだろう。

6月4日

面会の前に、病状の説明があるというので、別室に通される。厳しい表情をした医師たちがドアを開けた。寺本成美院長、馬場尚道副院長、主治医の崎戸徹医師の3人だった。馬場先生が説明を始めた。「血圧100/60、体温38.0度、人工呼吸器で酸素を口から補助している。外傷の火傷は30%、手ももっともひどく、その他に顔、脚、に火傷、レントゲンの結果、肺は300-400度の熱風を吸い込んだために真っ白である。とにかく救命が第一、火傷は後からいくらでも治せる。呼吸器系の回復がないと大変に危険な状態。生死をさまよっている。転送された3人の患者さんの中で矢内さんがいちばん状態が悪く危険、楽観はできない」

6月6日

担当医の尾藤誠司先生から話を聞いた。「肺の洗浄をしました。レントゲンの結果が1昨日、昨日、今日と目に見えて良くなっています。初めは正直言ってだめかと思っていましたが、少しずつ処理が功を奏してきたようです。以下略。」

6月16日

「どうも感染症の疑いがあります。たぶん肺だと思いますが、まだよくわかりません。肺の洗浄がなかなかうまくいかないのです。今はかんばしい状況ではありません。肝機能も低下しています。もう一つのヤマが迫っているのかもしれない。できることなら、もう一度目を開けてほしいのですが。」尾藤先生がうつむき加減で神妙な表情で話してくれた。

6月17日

尾藤先生がとおりかかったので、あわてて呼び止めて話を聞く。この病院の先生はみなさん親切で何回聞いても面倒がらずにいろいろと説明してくれる。

「39度の熱が続いています。肺の炎症らしいのです。右の肺が特にひどいようです。ここ1-2週がヤマでしょう。抗生物質の量を増やすことも考えています」

さきほどの夫の反応を伝えると(尾藤先生は)にっこりと笑ってくれた。医師の笑顔は、私たち家族を何よりもなごませる。

6月18日

「さまざまな抗生剤を使っています。それでも菌のせいで発熱が続いています。外部の回復は順調だが、問題は肺です」尾藤先生の説明は予断を許さないものだった。

6月21日

そんな私たちの淡い期待はすぐに破られた。午後三時、尾藤先生から病状の説明があったからだ。「肺の機能が低下しています。肺にしなやかさがなく、硬くなってしまっています。もう医学的には手を尽くして果てています。あとは本人の体力と気力に頼るしかありません」

6月23日

馬場先生はとても神妙な表情で、言葉を噛み締めるようにゆっくりと話し出した。「午後4時ごろから容体が急変してきました。肺のガス交換機能が落ちてきています。機械の力をもっても、血液中の炭酸ガスを外に出せません。本人に出す力がなくなっているのです。今日から明日がひとつのヤマです。至急、家族の皆さんに連絡してください。心臓がどれだけ頑張れるかが問題です」

午前零時、集中治療室の扉が開き、尾藤先生が姿を見せた。「今晩は乗り切ることができるでしょう。いくぶん持ち直しました」緊張と疲れが体中からにじみ出ている。先生の疲れも並々ではないだろう。

6月25日

尾藤先生も疲れ切っている。「体温が大きく変動しています。心臓への負担も大きいようです。昨夜の11時ごろから、また悪い状態になってしまいました。強い薬にも反応しなくなっています。このまま酸素の吸収が悪くなると、脳と心臓への影響が心配です」尾藤先生の顔を私は直視できなかった。徹夜で治療を続けられていたのだろう。真っ赤に充血している目だけを覚えている。

午後11時33分、呼吸不全により矢内万喜男、死亡。

「なぜ、雲仙で死んだの。一夫31歳、カメラマン 火砕流に呑まれたあなたに捧げる鎮魂歌(レクイエム)」矢内真由美著から引用。

# 看護部だより Vol. 20

## 看護部に新しい仲間が加わりました

教育担当係長 井口 麻里

新採用看護師69名が長崎医療センターの一員となりました。

4月1日から4日間の新採用者研修において、看護師長や副看護師長より講義や演習指導を受け、当院の看護を実践するための基本的な知識や技術、社会人としての心構えを学びました。

今年度の研修は、新型コロナウイルス感染予防のため、マスクの装着、手指消毒の準備はもちろん、研修会場を広く使い小グループ性にしたり、時間毎に換気するなどの対応を行いました。また、感染対策研修では、例年マスクやエプロンの着脱についても演習を行います。しかし、今年度はマスクやエプロンの供給が少ないため、全員が防護具着脱を経験することはできませんでしたが、代表者が実施する場面を確認し、学ぶことができました。

研修最終日には、「長崎医療センターの職員(看護師)という自覚をもち、自己研鑽していきたい。」「患者さん、病院のために頑張っていきたい。」「これから患者さんの命を預かる身として、研修で学んだ事をしっかりと念頭に置き、責任を持って1人1人の患者さんと向き合いながら看護を行っていききたい。」など、1人1人決意表明を行いました。

新たな環境に戸惑いや緊張もありますが、先輩や指導者の支援を受け、頑張っています。

今回は、新採用研修の様子をご紹介します。



採血演習



膀胱留置カテーテル演習



輸液の準備

どうぞよろしく  
お願いします！



# 地域医療連携室からのお知らせ



地域の先生方・医療スタッフの皆さま方には、日頃より、長崎医療センター地域医療連携室にご支援とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

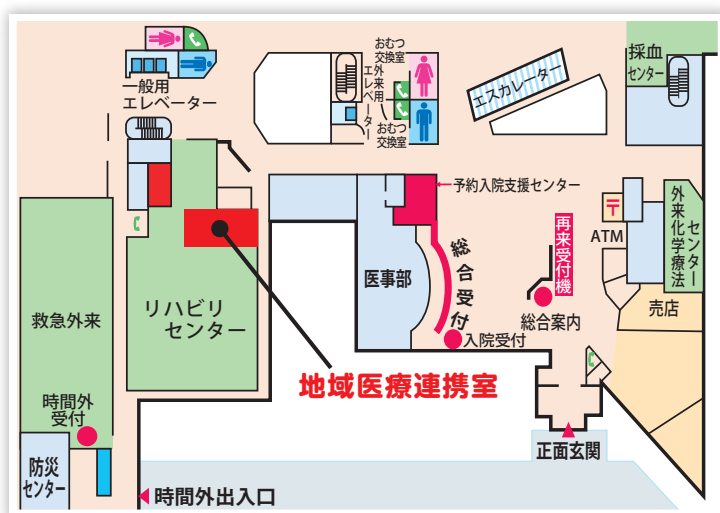
令和2年度の地域医療連携室の紹介をさせていただきます。

地域医療連携室は、吉田統括診療部長を室長に地域医療連携係長(看護師長) 医療ソーシャルワーカー2名、退院調整看護師5名、そして事務職員6名が配置されています。地域医療支援病院として、先生方や地域の方々とのさらなる連携の充実に取り組んでいきたいと思っております。

「地域医療連携室」は1階のリハビリセンターを入り、左側に位置しております。現在は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため面会禁止、入館制限を行っておりますことをご容赦ください。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

地域医療連携係長  
松尾 和美



## 理念

高い水準の知識と技術を培い  
さわやかな笑顔と真心で  
患者さん一人一人の人格を尊重し  
高度医療の提供をめざす

## 長崎医療センターの使命

長崎医療センターは以下の活動を誠実にを行い、地域拠点病院として住民の皆さんと医療機関からの信頼を得ることを使命としています。

- 安全で質の高い医療を提供する
- 絶対には断らない救急医療の最後の砦となる気概を持つ
- 地域の医療機関、行政と密接に連携する
- すべての医療人と学生に魅力的な教育研修を提供する
- 臨床研究を推進し、国際医療協力に貢献する